## 特別支援学級 算数科学習指導案

## 1 単元 「わくわく!どきどき!おかいものだいさくせん」

## 2 指導観

○ 本学級は、1年生1名、3年生1名、5年生1名、6年生3名の計6名の児童で構成されている。学習集団としてはお互いに優しく関わり合いながら楽しく学習を進めていくことができる。お買い物は大好きで喜んで出かけているが、自分で代金を支払うことについては様々な段階がある。児童の「自分でお買い物に行ってみたい。」という意欲を達成感の味わえる楽しい学習活動と結び付けることで、実生活に生きる数や金銭処理の力を高めることができると考える。

各自の実態は次の通りである。

	に思いている。		
児童	学習への取り組み	数や計算に関して	お金(買い物)に関して
1年女子	・おもしろいと思った課題	・10までの数を数えるこ	・お金を用意してもらって
A児 には、集中して取り組むこ		とができる。	代金を支払った経験はあ
	とができる。	・数字と絵や図、などとの	る。
	・具体物の操作が大好きで	マッチングができる。	・買い物は大好きで喜んで
	生き生きとして取り組む。	<ul><li>5までの数の足し算がブ</li></ul>	出かけている。
		ロックを使ってできる。	
3年女子	・手順が分かれば、課題に	・100までの数を数える	・自動販売機やお店で,
В児	意欲的に取り組むことが	ことができる。	500円硬貨を使って,お
	できる。	・ 2 けたの数の繰り上が	つりをもらう買い物の経
	・学習課題を分かろうとす	り,繰り下がりの計算,か	験がある。
	る積極性がある。	け算九九ができる。	<ul><li>・硬貨の識別はほぼできて</li></ul>
	<ul><li>できたことが実感できる</li></ul>		いる。
	と、とても喜んでさらに学		•1円, 5円, 10円,
	習を進めていこうとする。		50円,100円・500
			円の名称が分かる。
			・買い物は大好きで買って
			もらった物のお話をよく
			してくれる。
5年女子	・手順を理解すれば、てい	・50までの数を数えるこ	・自動販売機やお店で,
C児	ねいに学習を進めていけ	とができるが、大きさの理	500円硬貨を使って,お
	る。	解はやや曖昧である。	つりを貰う買い物の経験
	<ul><li>自分のやっていることに</li></ul>	・1桁の繰り上がり、繰り	がある。
	自信がもてると,ひとりで	下がりの計算がタイル・ブ	・1円,5円,10円の名
	学習を進めていくことが	ロックを使ってできる。	称が分かる。
	できる。		・買い物は大好きで家の人
	・指示や説明はよく聞いて		といっしょによく出かけ
	素直に学習を進めようと		ており,買ってもらった物
	する。		を喜んで見せてくれる。
L			1

	1		
6年男子	・手順や方法が分かれば、	・10000までの数を数	・千円札を使っての買い物
D児	課題には意欲的に取り組	えることができる。	の経験がある。
	むことができる。	・4桁までの足し算、引き	・硬貨の識別はできる。
	・作業をていねいに進めれ	算, 3桁÷1桁, 2桁×2	・等価関係はほぼ理解して
	ば、確実に結果を出すこと	桁の計算ができる。	いる。
	ができる。	・電卓で答の確かめができ	・買い物は大好きで、自分
	<ul><li>・友だちに学習のアドバイ</li></ul>	る。	の物などを家の人と一緒
	スや手助けができる。		に近所でよく買っている。
6年男子	・手順や方法がわかれば、	・10000までの数を数	・千円札を使っての買い物
E児	課題には集中して意欲的	えることができる。	の経験がある。
	に取り組むことができる。	・4桁までの足し算,引き	・硬貨の識別はほぼでき
	・友だちを励ましたり、誉	算, 4桁÷1けた, 3桁×	る。
	めたりして、かかわること	2桁の計算ができる。	・等価関係はほぼ分かる。
	ができる。	・電卓で答の確かめができ	・買い物は大好きで時々一
		る。	人でお使いにも行ってい
			る。
6年男子	・手順や方法を理解し、課	・10000までの数を数	・千円札を使っての買い物
F児	題に適切に取り組むこと	えることができる。	の経験がある。
	ができる。	・4けたまでの足し算,引	・硬貨の識別ができる。
	・活動の終わりを明確にす	き算, 4けた÷2けたの計	・等価関係は理解してい
	ると集中して取り組める。	算ができる。	る。
		・電卓で答の確かめができ	・値段によってどの金種を
		る。	準備したらよいのかがほ
			ぼ分かる。
			・家の人に頼まれた物を複
			数買ってくることができ
			ている。
L	1		

○ 本単元は、児童が興味をもっている「買い物」の場面を設定し、お店での買い物の模擬活動をする中で金銭の使い方や計算に慣れたり、商品カードと同じ品物を選んだりすることをねらいとしている。つまり、いろんな値段の品物の代金を正確に支払ったり、いろんな金種を使ってお金を出したり、同じ品物や同じ個数を選んだりしながら、金銭や物の値段に関する意識や処理の能力を高めようとするものである。

具体的には、①買おうとする品物が分かる。②買う物とその値段を知る。③買う物の金額に合わせて、並べ板にお金を並べる。④値段と出したお金を確かめ品物を受け取る。⑤何を買って何円支払ったのかを記録する。といった活動を繰り返すことで金銭を使うための経験を重ね、使える金種を増やしてより合理的に代金が支払えるようになることである。

これらのことは、日常生活において必要に応じいろいろな物を買うという金銭に関する能力を養う上で大切である。また、児童の興味・関心や日常生活に沿った内容と場を設定することで、意欲が持続し、実生活に生かすことができる。さらに活動の手順や方法が少しずつ変化しながらも、単元全体を通して基本となる操作が繰り返されるため、個のめあてや見通しがもちやすく、自ら課題を発見し、解決し続ける態度を育てる上からも意義深いといえる。

○ 本単元の指導にあたっては、お店で買い物をするという場面設定の中で意欲を高め、「ちょうどのお金を出して、買い物をしよう。」「買う物の種類や数を間違えずに、買い物をしよう」という課題をもち続け、代金を丁度の金額で支払う活動・できるだけ少ない金種で支払ったり、おつりをもらったりする活動・商品をカード等とマッチングして取り出す活動等を通して、生活に生かせる金銭に関する能力を個に応じて段階的に身につけることができるようにしたい。

そのために、まず単元の導入においては、生活単元学習と組み合わせてカリキュラムを構成し、「お店に行って自分で買い物をしたい。」という意欲の喚起のために、これまでのそれぞれの買い物体験の中から、いろんなお店があったことや買いたい品物があったこと等を想起させるとともに、どんなことが分かれば買い物ができるのかや、学習の発展としてみんなでお買い物に行くことなどを確認して活動に見通しをもたせ、各自が意欲とめあて(お買い物のためのだいさくせん)をしっかりもって学習に取り組めるようにしたい。その後、モデル演示や試しの活動で個々の手順や方法を確実につかませ、「お金をぴったり出して、いろんな買い物をしたい。」「品物の数や種類を間違えずに買い物をしよう。」という意欲が持続するようにつなげたい。

次に単元の展開場面では、自分のめあてを確認し、買い物をする品物を決め、一つ一つの品物の代金を並べ板に並べ、確認して買い物カードに記入させたり、商品カードと同じ商品を選ばせたりする活動を繰り返し行うことで、「次は〇円玉を使ってみたい。」「もっとたくさんの物を買いたい。」「もっと高いものも買ってみたい。」などといったさらに高度なめあてにもつながる意欲をもつことができるようにしたい。

最後に単元の終末では、再び生活単元学習の「楽しいお買い物に行こう!」と合わせた体験学習へと発展させることで、本単元で学習したことが個々の発達段階に即して実際の生活の場で生かせ、 それが、生きる楽しさや充実感、達成感につながるようにしていきたい。

#### 3 単元目標

- 買い物をすることに対して自分の課題をもち、自分の力に応じて段階的な手順をふまえながら 楽しく解決し続けることができる。
- 実物の貨幣を使って、買い物の模擬活動に興味をもって取り組み、金銭に対して関心を高めることができる。
- 正確で、より合理的なお金の取り出し方に慣れ、実際の生活場面での買い物に生かすことができる。

# 4 指導計画(生活単元学習を含めて全11時間)

_	田寺町画(エルギルナ目を日の)	(エ・「時間/	
	第1時 導入	第2時	第3時~5時
	(生活単元学習)	貨幣の識別	貨幣の等価関係
	◎ 買い物の場面を想定し,	◎ 貨幣の識別について理解	◎ 貨幣の等価関係について
目	話し合いを通して、単元全	を深め、お金にはいろいろ	理解を深めることができ
	体のめあてをもつ。	な種類があることが分か	る。
標		る。	(A児・・・教師とともに写
1245			真と同じ品物を選び取るこ
		5円までを1対1対応でき	とができる。)
		る。)	
	1 学習問題を知る。	1 学習問題を知る。	
		1 子目内感でかる。	
	問題	問題	問題
	お買い物に行った時の	お金の種類をおぼえ	お金をならべましょう。
学	ことをお話しましょう。	ましょう。	
子			2 めあてをつかす。
	************************************		2 めあてをつかむ。
য়য়	※今までの経験の中から、	0 4 7 7 0 4 7 0	めあて
習	・買った物	2 めあてをつかむ。	<ul><li>どのお金を何枚おけば</li></ul>
	<ul><li>楽しかったこと</li></ul>	めあて	よいのか考えよう。
ンナ	・買い物のしかた	・色や大きさで考えよう。	・写真と同じ品物をさが
活	などを自由に発表する。		そう。
		・1円玉をならべよう。	
<b>4</b> 1.	2 考えをつくり、伝え合う。		0 + 2 + - 2 +
動	※買い物にはお金を持って行		3 考えをつくる。
	くことから、「買い物」とは自	3 考えをつくる。	<ul><li>・1円が5枚で○円</li></ul>
,	分のもっているお金の範囲内	・教師が提示した金額と同じ	<ul><li>・10円が5枚で○円</li></ul>
と	で、品物の値段と同じだけの	貨幣を選び取る操作を繰り返	<ul><li>50円が2枚で○円</li></ul>
	お金と品物を取り替えてもら	J. 1. 11. 0. (K. ) (A. )	・100円が5枚で○円など
.,.	うことであることに気付くよ	※本物の貨幣を準備して、現	※並べ板に置いていくこと
内	うにする。	実感を体験できるようにす	で、貨幣の種類が変わる様子
	※買い物に行くためにはどん	る。	を繰り返し体験できるように
<b> </b>	な学習をすればよいのか、自	※A児については、1円玉で	する。
容	分のめあてについて考え,交	1対1対応をしながら,5円	※A児については、商品(写
	流できるようにする。	までの理解を進める。	真)カードと同じ品物カード
			を選び取る活動を教師と一緒
	3 単元のめあてを見出す。		にする。
	(単元のめあて)	4 まとめる	
	お金の種類や計算のし	まとめ	4 まとめる
	かたを知って、楽しいお	・色や大きさによってお	まとめ
	買い物に行こう。	金の種類がちがう。	・同じ金額をいろいろなお
		・1円玉を並べることが	金でおける。
		できた。	・写真と同じ品物がとれ
		C C /C0	<del> </del>

	第6時~8時 貨幣の支払い	第9時 買い物の計画	第10時~11時 買い物に行く
	(第8時)	第3時	(生活単元学習)
	(先 6 时)	(生位平儿子百) 	(生佰事儿子百)
	◎ もっているお金で効率よ	◎ お店に買い物に行く計画	◎ 学習したことをお店での
目	く支払ったり、おつりをも	を立てることができる。	買い物に生かすことができ
	らったりできる。		る。
標	(A児・・・商品カードと同		
/示	, , , -		
	じ商品を選び取ることがで		
	きる。)		
	1 学習問題を知る。	1 学習問題を知る。	1 学習問題を知る。
	問題	問題	問題
	お買い物をしましょう。	お買い物の計画を立て	
	わ貝い物をしましょう。		
学		ましょう。	<u></u>
	2 めあてをつかむ。	2 めあてをつかむ。	2 めあてをつかむ。
習	めあて	めあて	めあて
	・正しくお金を払ったり,	行きたいお店や買いたい	<ul><li>・レジでお金をはらおう。</li></ul>
	│ │ おつりを貰ったりしよう。 │	物を決めよう。	<ul><li>・決めた商品をもってこよ</li></ul>
活	・同じ商品を同じ数だけさ		う。
台	がそう。		
=61			
動	3 考えをつくる。	3 考えをつくる。	3 買い物をする。
	・47円は,10円が○枚,	・何を買いたいのか,出し合	※A児は事前に決めた商品を
	5円が○枚,1円が○枚	う。	買うようにする。
と	<ul><li>・○円からおつりを貰おう。</li></ul>	・校区ではどのお店に行くか	※並べ板が必要な児童には用
	※貨幣別に並べ板において分	話し合う。	意しておく。
	かり易くする。	※各自の学習段階に応じて予	※できるだけ少ない数のお金
内	※商品の金額を個別の課題に	算を決めておくようにする。	で支払うことができるよう
	そって変えるようにする。	  ※A児は予め買う物を家の人	に声をかける。
	※電卓を使っておつりが確か	と相談して決めておく。	_
容	められるようにする。		
1 1	※A児については商品カード	   4 まとめる	4 まとめる
	と同じ商品を選び取る活動	1 4 C W W	1 6 C W 3
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	まとめ	まとめ
	をする。	自分が行きたいお店や	・買い物をする時はお金を
	※買い物の記録を「買い物力	買いたい物が決まった。	   正しくはらうことが大事。
	ード」に残し意識がつなが		- ・きめられた数のものを選
	っていくようにする。		
	4 まとめる		
	まとめ		
	・ちょうどのお金で支払え		※記録をもとに国語の「お買
	た。(おつりをもらえた。)		い物報告会」の発表へとつ
	・同じ商品を同じ数だけ		なぐ。
	とれた。		

#### 本時(8/11貨幣の支払い)

#### 5 本時の目標

- 自分のめあてをつかみ、買い物の模擬活動をしたり、商品カードと同じ商品を取り出す活動を したりすることができる。
- 正確にお金を取り出して、計算することができる。
- 買い物カードに記録したことをもとに、自分の買い物について発表することができる。

#### 各児童の目標

A児	・商品カードのお菓子などの数(1個~5個)を見て、同じ品物を探して同じ個数を持
	ってくることができる。
B・C児	・表示された金額に応じて、1円玉、5円玉、10円玉・50円玉・100円玉を組み
	合わせ、正しく取り出し、買い物カードにまとめることができる。
$D \cdot E \cdot F$	・表示された金額に応じて、1円玉、5円玉、50円玉、100円玉、500円玉、
児	1000円札を組み合わせ、正しく取り出し、買い物カードにまとめて合計を出した
	り、おつりを確かめたりすることができる。

#### 6 本時指導の考え方

○ 前時までに児童は、少ない数の商品を買う場合や使う貨幣の数が限られた簡単な値段設定の商品を買う場合の場面を設定し、お店での買い物の模擬活動や商品の取り出し活動を繰り返す中で、金銭の価値や使い方、計算の仕方に慣れ、値段とちょうど同じ金額の貨幣を取り出したり、できるだけ少ない数の貨幣で支払ったり、おつりを貰って確かめたり、商品カードと同じ物や同じ個数をもって来たりすることを学習してきている。

本時は同じ買い物の場面で商品の数や値段を変えて、前時までの活動を繰り返し行い、買い物の模擬活動や商品の取り出し活動を手順に従い順序よくできるようになることがねらいである。

そのため、めあてを見い出す段階では、前時までの活動を振り返り、手順と活動の場を提示することで、本時学習の見通しをもつことができるようにするとともに、各自の課題を意識できるようにする。

次に考えをつくる活動の手順としてA児は、①取り出した商品カード(写真)を見て、商品の種類と数を確かめ、お店に並んでいる商品カードを選び出す。②選んだ商品カードを買い物カードにはる。③別の商品カードを選んで①と②を繰り返す活動に取り組むことができるようにする。B児は、1円玉・5円玉・10円玉・50円玉・100円玉までを、C児は1円玉・5円玉・10円玉までを、D・E・F児は1000円までの貨幣を使って、①自分が欲しい商品のカードを選び取り出す。②その商品の値段を見て、買い物カードに記入する。③値段と同じになるように、お金を取り出し、並べ板に金種別に並べる。④並べ板に置いたお金を金種別に枚数を買い物カードに記入する。⑤値段とお金が一致したら、買い物をする。⑥買い物カードに買った商品のカードをはり、払った金額を模擬貨幣をはって記録する。一つ一つの商品について、①から⑥までを繰り返し行ったり、近い金額でおつりを貰って電卓で確かめたりする活動を繰り返し行う。

さらに共有する場面では、それぞれの買い物カーをドみんなに紹介して、自分の学習を確かめたり、友だちの努力やよさを認めあったりして、達成感や充実感をもたせたい。また、これまで学習したことを生かしての実際のお買い物ための計画を立てることを次の課題とすることで、実践へ向けての意欲をつないでいきたい。

### 7 準備

教師:学習の手順表,商品,商品カード,等価関係表,値段カード 児童:並べ板,お金,買い物カード,電卓,記録用の擬似貨幣

## 8 学習展開

学習活動と内容

н	1. 本時学習のめあてを確か			〇前時までの活動の想起
見 い	すきなものをえらんでま 2. 活動の手順を確かめる。	〇手順表の提示 (活動の流れや場の確認)		
だ		1- <del>1</del> z		
	<ul><li>○ 手順表を見ながら確認</li><li>⇒ と ど 、 かぶき そ (お)</li></ul>		-ノ)の江動の法れた味かみて	〇等価関係表の提示
す		:らべる)→かう→まとめる(書 !++ ?	く)の店期の流れを催かめる。	〇各自の課題の提示
,	○ 一人一人の課題を確認			〇自信をもてる声かけ
	3. めあてにそって買い物をし、買い物カードに記入する。			
	A児	C児	B児	〇個の操作活動を促す支援
	①商品カードを選ぶ。	①商品カードを選ぶ。	①商品カードを選ぶ	(A児)
		いたチョコ 32えん	ぼうチョコ 150円	・商品カードを選んだ後,
				「これは何?」「何個かな?」
				など注目すべき要素について声
	②カードと同じ商品カード	②値段を記入する。	②値段を記入する。	かけをする。
	を探す。	③ならべ板で確かめる。	③ならべ板で確かめる。	- 集中がとぎれそうになる前に,
	③カードと同じ商品カード	いたチョコ	ぼうチョコ	できたことを誉めたり、困って
2	を持ってくる。	3 2 えん	1 5 0円	いることに助言したりして活動
• )				の意欲が続くようにする。
		10		(B児)
				<ul><li>商品の値段声に出して確かめ、</li></ul>
			100 50	買い物カードに記入した後、並
,		+のくらい 一のくらい		べ板に一の位からお金を並べて
<	④買い物カードに商品カー	・10 円玉 ・1 円玉	百の位 十の位 一の位	いくように声をかけ琉事で等価
	ドをはる。	· 50 円玉 · 5 円玉	100 円玉   10 円玉   1 円玉	関係を意識できるようにする。
	(写真) (商品カード)		500 円玉   50 円玉   5 円玉	※一の位が5円以上では5円玉
	カード	④代金を袋に入れて, 買い物	④代金を袋に入れて,買い物	と1円玉の組み合わせで、十の
		をする。	をする。	位が 50 円以上では 50 円玉と 10
<b>-</b>		⑤買い物カードに記録する。	⑤買い物カードに記録する。	円玉の組み合わせで、払うこと
る	カード		ぼうチ	を意識できるようにする。
	カード	いたチョコ	37	・活動に自信がもてるように肯
,		をかいまし		定的な声かけをする。
/		t.	をかいま	
		⑩が3まいで	した。	(C児)
		(30)円	100 円が	・商品の値段を一緒に読んだ後、
		①が2まいで	1まいで	買い物カードに記録する位置を
	※①~④を繰り返す	(2)円	100円	確認し、その上の並べ板を置い
		1 1 3 2円はらい	50 円が 1	て一の位からお金を置いていく
		(1)   ました。	まいで 50	ように声をかける。硬貨の変換
			<u>円</u>	に気付かない時は知らせる。
		3 2 円	150円	<ul><li>活動がとぎれないように次の</li></ul>
		※①~⑤を繰り返す	はらいま	活動を知らせる。
			100 50 した。	<ul><li>活動に自信がもてるように肯</li></ul>
			1 5 0 円	定的な声かけをする。
			L	
共	4. 学習したことを発表する		10001米ソペリ	Oできるようになったことをお
有 す	4. 学習したことを発表する。 ・買い物カードをもとに、買った物と代金、おつりなどについて一人ずつ発表する。 ち. 本時のまとめをし、次時の内容を知る。 ・商品カードと同じ商品が買えた。    ・ちょうどのお金を出して、買い物ができた。 ・ 次はお店でのお買い物の計画を立てる学習をすること。			互いに誉め、認め合うことで、
る				五いに言め、認め合うことで、 充実感や達成感が味わえるよう
、まレ				元夫数や達成数が味わえるようにする。
とめて	と 「・商品ガードと同し商品か真えた。 ・ちょうとのお金を出して、真い物かでさた。」 ・ 次はお店でのお買い物の計画を立てる学習をすること。			1~ 9 る。
る	・ 仮はわ店で切わ貝い物	かい計画を立てる子首をすること	- 0	

学習活動を促すための支援

#### 8 学習展開

